

3) 試験結果及び結論

① 有効塩素濃度

結果を表-2に示した。

② 皮膚反応(表-3~8)

試験群では、誘発後48及び72時間の各観察時間において、いずれの貼付部位にも皮膚反応は観察されず、陽性率は誘発後48及び72時間でいずれも0%であった(平均評価点：いずれも0)。

陰性対照群では、誘発後48及び72時間の各観察時間において、原水貼付部位に皮膚反応は観察されず、陽性率は誘発後48及び72時間でいずれも0%であった(平均評価点：いずれも0)。また、検体貼付部位においても皮膚反応は見られず、陽性率は誘発後48及び72時間でいずれも0%であった(平均評価点：いずれも0)。

一方、陽性対照群では、誘発後48時間には壊死及び痂皮形成(ともに点数4)並びに浮腫(点数1)、72時間には痂皮形成が見られた。陽性率は誘発後48及び72時間でいずれも100%であった(平均評価点：4.4及び4.0)。

なお、すべての群において試験期間中の体重変化に異常は見られなかった。

以上のことから、検体はモルモットにおいて皮膚感作性を有さないものと結論された。

*1 2,4-dinitrochlorobenzene [和光純薬工業株式会社]

*2 false positive responseの確認のために、陰性対照群においても試験群と同じ誘発試料の曝露が必要である。